

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児の健康増進への看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	20 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2、3階、演習室
担 当 教 員	藤澤真由美	実務経験と その関連資格	看護師・・・ 総合病院病棟勤務、小児救急外来で勤務。 看護教員・・・ 5年一貫看護学校教員、看護短期大学非常勤			
《授業科目における学習内容》						
科目目標： ①成長・発達知識と成長発達に合わせた生活支援の方法を理解する。 ②発達段階別に、各期の子ども成長・発達、家族、各期における日常生活の支援方法を理解する。 ③心理的準備であるプリパレーションについては演習を通して模擬実践ができる。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験50% 課題レポート15%評価方法【終講試験(50%)、課題(提出・内容)・授業態度(15%)で総合的に評価する。 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満する。【担当配点】藤澤:65点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 小児看護学②看護技術、中野綾美編、メディカ出版 【参考書】 ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護、中野綾美編、メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護、中村友彦編、メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
1) 事前課題にとりくみ、子どもの特徴を理解したうえで講義に臨む 2) 教科書の該当ページを予習復習し、わからない言葉については必ず調べ臨む。						
《履修に当たっての留意点》						
1) 小児看護学概論の小児各期の発達課題と身体の形態・機能、体格、情緒、社会性といった心身の発育をふまえて臨む。 2) 演習においても子どもへのコミュニケーション技術を用いながら実践する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 援助関係を形成するうえで必要な基礎知識、目的やプロセスについて理解できる 2. 子どもとその家族への援助関係を形成、維持・強化する技術を理解し、実践できる	教科書p.14～25 配布資料	教科書を事前に読み、事例の援助について意見を述べる。	
		各コマにおける授業予定	援助を形成する技術 ・援助形成するうえで必要な基礎知識 ・子どもと家族への援助関係を形成する技術 ・事例を用いた技術の活用			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 子どもの発達段階の特徴とおこりやすい事故を理解できる	教科書p.30～52 配布資料	子どもの視野を体験しながら、子どもにとっての安全な環境についてグループワーク	
		各コマにおける授業予定	・発達段階に応じた子どもの生活環境 ・子どもにおこりやすい事故(誤飲、転落、溺水、窒息、熱傷など)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 子どもの成長発達に応じた生活環境の調整、セルフケア力を高める環境づくりを理解できる 2. 子どもの事故防止、感染予防の方法への取り組みを理解できる	教科書p.30～52 配布資料	子どもの視野を体験しながら、子どもにとっての安全な環境についてレポート	
		各コマにおける授業予定	安楽・安全な環境を調整する技術 ・発達段階に応じた子どもの生活環境 ・事故防止する環境 ・感染予防のための環境			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 成長発達に合わせた食事(調乳や授乳、離乳食)を理解し、その援助方法を理解できる 2. 食事に対する医療的な援助方法(経管栄養法)や食べる機能の障害のある子どもへの援助を理解できる	教科書p.58～88 配布資料	子どもの発達の特徴を振り返り、イメージしながら学習する。
		各コマにおける授業予定	食事の援助技術 ・子どもへの食事の援助の実際(AR) ・子どもの健康状態に応じた食事・栄養摂取法とケア		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 成長発達に合わせた排泄(おむつ、トイレトレーニング)を理解し、その援助方法を理解できる 2. 排泄に対する医療的な援助方法(浣腸や導尿)やストーマのある子	教科書p.94～105 配布資料	動画を視聴し、子どもの発達の特徴を振り返り、イメージしながら学習する。
		各コマにおける授業予定	排泄の援助技術 ・おむつ交換(AR)、排泄行動自立への援助 ・浣腸、導尿、ストーマケア(AR)		
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 成長発達に合わせた清潔・衣生活を理解し、その援助方法を理解できる	教科書p.110～126 配布資料	動画を視聴し、子どもの発達の特徴を振り返り、イメージしながら学習する。
		各コマにおける授業予定	清潔・衣生活の援助技術 ・沐浴(AR)、入浴、清拭、洗髪、口腔ケア ・衣服の交換(AR)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 子どものバイタルサイン測定の方法、フィジカルアセスメントが理解できる	教科書 配布資料 GW:人形聴診器、血圧計など	子どもの特徴と援助方法について考える。
		各コマにおける授業予定	症状・生体機能の管理技術 ・子どものバイタルサイン測定		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 子どもの身体計測の方法を理解し、成長・発達をアセスメントできる	教科書p.204～242 配布資料	子どもの特徴と援助方法について考える。成長・発達をアセスメントする
		各コマにおける授業予定	症状・生体機能の管理技術 ・身体計測(頭囲、胸囲、身長測定、体重測定) ・子どもの成長・発達をアセスメントする(カウプ指数、ローレル指数、肥満度)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 検査や処置を受ける子どもへの安心・安全・安楽の援助方法について理解できる	教科書p.246～252 配布資料	子どもの特徴と援助方法について考える。
		各コマにおける授業予定	安全・安楽を確保する技術 ・体位、遊びの活用 ・行動制限 ・プリパレーション		
第10回		授業を通じての到達目標	終講試験		
		各コマにおける授業予定	まとめと終講試験		